

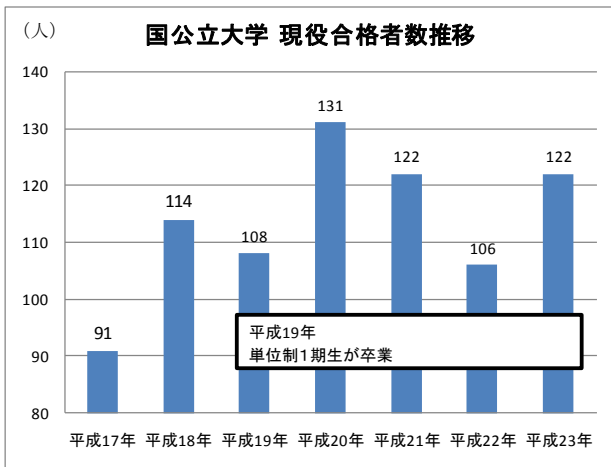
# CASE 1

## きめ細かい面談指導を通して ぶれない目標を持たせる取り組み

高校 情報	基本情報：北海道札幌旭丘高等学校、公立、共学、普通科 規模：1学年 320名8クラス、2学年 320名8クラス、3学年 320名8クラス 主な進路状況(現役)：国公立大 122名、東京大1名、京都大1名、一橋大1名、東北大5名、北海道大 31名他
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 単位制移行というきっかけで行った学校改革</li> <li>● 学校課題の把握と検討会の実施→面談の実施</li> <li>● 難関大志望者育成のグループ指導</li> </ul>

### I. 高校の紹介

札幌旭丘高校は札幌市立の全日制普通科単位制高校であり、2008年度に創立50周年を迎えた道内有数の進学校である。2004年度に単位制へ移行し、きめ細やかな進路指導の実現と生徒の自主性と自立心を引き出す指導に力を入れている。近年では、東京大学、京都大学等の難関大合格実績が向上している。

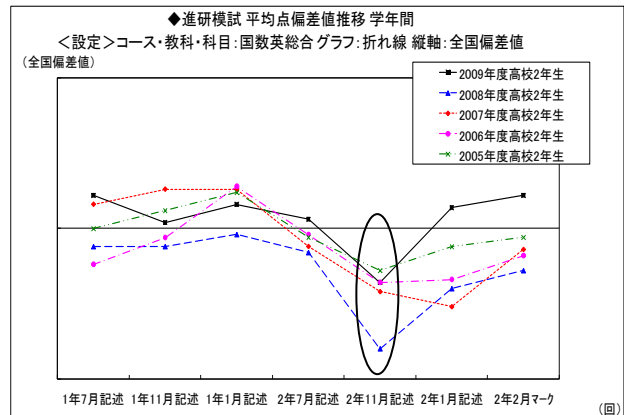


### II. 取り組みに至った背景

単位制移行以前、同校では大学進学実績が伸び悩み、改革を求める声は日増しに大きくなっていった。大学進学そのものではなく、「主体的に人生の目標を見つけ、進むべき道を自分で歩く力を身につける事」を目的として単位制高校へ移行が行われた。

そのような中、ここ数年で新たな課題が学校内で聞かれるようになった。「2年生後半の中だるみが大きい。特に、2年生見学旅行前後の過ごし方と3年生の0学期での受験生への意識の切り替えが出来ていない」との声である。2年生8月からは夏休み⇒見学旅行⇒冬休みと、せわしく

流れてしまい、学習習慣が乱れがちになる。進研模試2年生7月記述から11月記述への国数英3教科の平均偏差値推移を見ると過去4カ年全ての学年で下がっており、道内の同レベルの進学校と比べても下がり幅が大きい。



また、3年生0学期での受験に向けた意識の切り替えが遅く、そのまま3年生1学期に突入してしまう生徒が多い。5月からは高体連が始まるため、実質多くの生徒が夏までの間、なかなか受験勉強を本格的にスタートできないまま過ぎてしまう事が課題となっていた。

### III. 取り組みの成果と振り返り

#### ■2004年度～「単位制移行」

2004年の単位制導入をきっかけに、単位制システムの整備、シラバスや年間の指導計画作成を行った。札幌旭丘高校の指導のベースは冊子としてまとめられている。3年間を見通した進路指導の指針となる「進路のしおり」、3年間の教科指導を見通した「シラバス」、高校3年間の過ごし方、心構え、科目選択や複数担任制が記されている「ガイダンスブック」、そして、総合的な学習で使用している「Sunrise Time」である。共通している点は、3年間を見通している点と生徒が直接

書き込み、保存ができる、という点である。例えば、同校では模試の事前事後に目標設定と振り返りを記入させているが、都度のプリント配布ではなく、「進路のしおり」内に記入シートが綴じ込まれている。都度の配布だと時間がたつと紛失してしまう事、年間を通しての振り返りが行いにくい、という理由から、手元に残るような仕掛けをしている。

また、2人担任制できめ細やかな指導を実践されているのも同校の特徴である。

## ■近年取り組み始めた事

### ①初期指導の徹底

まず、何よりも初期指導の徹底を改めて意識した。2年前から新入生の4月は「初期指導月間」と位置付けて指導を行っている。取り組みの具体的な内容は下記である。

- ・宿泊研修にて高校3年間の過ごし方を「ガイダンスブック」を元に伝えている。
  - ・初回の授業では各教科で「授業の受け方」「ノートを取り方」「予習の仕方」「復習の仕方」等を教えている。
  - ・自己理解を深める。(スタディーサポート1年生1回)
- ※入学後には「ガイダンスブック」「教科のシラバス」「進路のしおり」が配布され、それらを元に3年間を見通した指導が行われる。

### ②きめ細やかな面談を通して目標を持たせる指導の徹底

大切なのは大学進学そのものではなく、「主体的に人生の目標を見つけ、進むべき道を自分で歩む力を身につけさせる事」という認識の元、自主性と自立を促す為に、きめ細やかな面談を実施し、目標を持たせる指導を実践している。特に、面談前に学年での学力や志望に関する検討会を実施し、面談での内容を充実させる流れを作っている。

1, 2学年は年3回の検討会と年2回の全員面談を実施している。

1年生5月 第1回検討会	スタディーサポート1年生1回のデータを元に、過去の学年の結果との比較、該当学年特有の傾向を確認する。
1年生6月 全員面談	5月の検討会の内容を元に面談を実施。特に、「高校生活が順調かどうか」「科目選択に向けた興味、関心」の確認を行っている。
1年生9月 第2回検討会	進研模試1年生7月とスタディーサポート1年生1回の結果を元に「苦手教科、得意教科の確認」を行い、科目選択につなげ

	ている。
1年生10月 全員面談	9月検討会で共有した内容を元に、科目選択に向けた面談指導を徹底している。
1年生10月 下旬	科目選択〆切

### そして、1年生2月から「目標を持たせる」指導が始まる。具体的には下記。

1年生2月 第3回検討会	今まで受験した進研模試(1年生1月、1年生7月、1年生11月)の結果を元に「伸びている生徒」「落ち込んでいる生徒」の確認と生徒状況の共有を行っている。
1年生2月 ガイダンス月間	進研模試1年生1月返却→ガイダンスで進路目標を明確化させる。
1年生3月	進学講演会で意識を高め、「 <u>目標校宣言</u> 」を行っている。特に、この時期は自分の学力と関係なく志望を書かしている。また、スタディーサポート2年生1回の実施で1年間の振り返りを実施。
2年生9月 第2回検討会	進研模試2年7月の結果を元に「伸びている生徒」「落ち込んでいる生徒」の確認。初めての志望校評価を元に、A評価、B評価の生徒はさらに高い目標を見せる面談、声掛けを行う。

### ★2年9月「第2回検討会」のポイント

D評価、E評価の生徒にはしっかり事後のフォローを行っている。特に初めての志望校評価が良くない場合、希望を捨てない事、これから頑張れば可能性がある事を伝える。この層の生徒には模試の帳票の弱点分野を面談中にしっかりと確認し次に何をすべきかの確認と実際の答案を確認し時間が足りなかったのか、それとも解答したのに正解ではなかったのか等を確認している。

2年生2月	ガイダンスを通して「 <u>志望校宣言</u> 」を作成。志望校宣言では、学力や志望をある程度加味した学校を考えさせている。
2年生2月 第3回検討会	進研模試2年1月、2月マークの結果と「 <u>志望校宣言</u> 」を元に、志望校と学力の差を確認する。
★2年生2月「第3回検討会」のポイント 学年全員の先生からアドバイスをもらいながら、	

「学力と志望校に隔たりがある生徒」を共有し、声掛けの仕方等のアドバイスをもらう。特に、「3教科は下がっているが、数学は伸びている」等、教科担任の先生から生徒の傾向を共有してもらう。

### ③難関大指導

同校では難関大志望者育成にも力を入れ始めている。下記は取り組みの流れをまとめている。「北大以外の難関大」「医進系」を中心に志望を同じくする生徒達をグループにして、ガイダンスや講習を実施している。狙いは競争心を持たせ、一体感を高める事である。具体的な流れは下記。

年	月	難関大	医進系	看護
2年	7月	第1回ガイダンス		
	8月		ワークショップ 講師：旭川医科大	
	8～9月	先輩の話 を聞く	医療体験	看護 体験
	12月		先輩の話 を聞く 医者 の話 を 聞く	
	3月	第2回ガイダンス 合格体験談を聞く		
3年	4月	添削指導 開始		
	7月	第3回ガイダンス		
	8月		ワークショップ 講師：旭川医科大	
	8～9月	先輩の話 を聞く	医療体験	看護 体験
	8～12月	英数国対 策講座 (放課後)	グループ討論	グル ープ 討 論
	12月		先輩の話 を聞く 医者 の話 を 聞く	
	1月	特ゼミ		
	3年時講 習			

### ★今年度実施している事

#### A, 難関大入試分析

今年度より難関大の入試分析を職員研修にて実施した。今年度は下記内容で6月の試験期間に実施している。取り組みが1年間の指導に活かせるようにこの時期に設定している。

- ・教科は国数英の3教科で難関大の問題を題材とする。理由は難関大の問題は良問であるから。
- ・東大、京大の合格者数を出すのが目的ではなく、どんな力が求められているかを知る事が目的。
- ・教科ごとの共有だけではなく、他教科の先生と共有する事も目的。つまり、求められている力を教科を横断して認識し、生徒だけでなく先生

も育成していこうという考えである。

- ・今回は前年度3年生担当の先生が実施。4～5年サイクルで全ての先生に回るように考えている。
- ・発表は10分間。時間を絞る事で明確になる

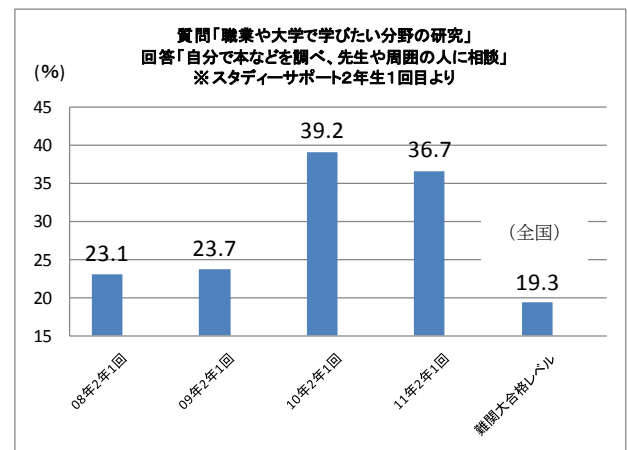
#### B, 難関大の先輩と語る会

8月下旬の放課後に東大、京大、お茶の水女子大に通う卒業生を招いての座談会を実施。対象は全学年生徒の自由参加。主な内容は「大学、キャンパスの雰囲気は?」「大学の勉強は難しい?」「まわりはどんな学生?」「高校時代の勉強は?」といった、難関大を身近に感じさせる内容となっている。

#### ④大切にしている事

1年次から「受験は団体戦」ということを生徒に伝えている。昨年度、卒業生を出された進路の先生曰く「1人ではつらい事もあるが、グループや学年全体で取り組むからこそ超えられる事もある。3年生の最後の模試まで基本的には全員で受験をさせているが、全員で模試を受けるからこそ、全員で受験に向かう雰囲気が作られ、全員で授業を受ける雰囲気が作られている。」

様々な仕掛けを通して幾つか変化が見られている。下記は、スタディーサポート2年生1回目の学習状況リサーチの結果である。データからも2年の4月前後で主体的な進路学習が出来る傾向が高まっている事が伺える。



#### ⑤進路研究のベースとなる「Sunrise Time」

同校では課題発見・解決力の育成にも力を入れている。「総合的な学習」の時間を「Sunrise Time」と名付け、3年間を通して系統的な課題研究を展開している。

- ・1年次…主体的に調べる力、プレゼンテーション、ディスカッションの方法などについて学ぶ。
- ・2年次…ゼミ活動や課題研究を通して主体的に調べる力を学ぶ。
- ・3年次…研究発表を行っている。

#### ★特徴的な2年次からのゼミによるクラス分け

生徒は興味・関心に応じて「人権」「環境」「メディアカル」「コミュニティ」「経済」「フード」「平和」「いのち」のいずれかのゼミに所属する。ゼミ定員は20人で、2つのゼミを合わせて1組とし、40人のクラスを作っている。単位制であるがゆえに、集団のまとまりがかけてしまいがちだが、生徒の興味・関心に応じてこのようにクラスを作ることによって、生徒同士が刺激し合うとともに、連帯感を醸成できる場となっている。

#### IV. 今後の展望

学校全体で3年間を見通す指導を目標に様々な取り組みを実践されている同校であるが、体系的な流れが確立されているのが一つの特徴である。「1から学年でつくるより、前年行った事を参考に変化をしていった方がスピード、質ともに高くなる」とおっしゃる。今後に向けては、『難関大をチャレンジしたい』と思わせる取り組みを充実させたいとの事。既に、各時期の進路行事や職員研修の取り組みを行っているが、「授業でいかに難関大を意識させるかが重要だ」という事を伺っている。

また、「大切にしたいのは東京大学、京都大学といった難関大の合格実績を伸ばす事だけでなく、3年間でやりたい事を考えさせ、その結果、『学びたい事があるから難関大学に行きたい』と生徒が感じる事ができる指導をしたい」という言葉を頂いた。同校のさらなる飛躍に期待したい。